同志社大学国文学会彙報

一九八九年度国文学会活動状況

〈新入生歓迎会〉　四月十日　新島会館

〈国文学会総会及び研究発表会〉　七月二日　本学至誠館会議室

・総会

・研究発表会

「『太平記補闕』小考」

田中正人氏（本学大学院博士課程後期在学生）

「『京都お伽倶楽部』発足前後」

宮本正章氏（大阪府立箕面高等学校教諭）

〈講演会〉　十二月十三日　本学神学館チャペル

「紫式部と源氏物語」

南波　浩先生（本学名誉教授）

〈同志社大学国文学会会報十七号〉　三月十日発行

〈同志社国文学三十三号〉　三月二十日発行

一九八九年度卒業論文題目

ヤマトタケル伝承考　原　一洋

『古事記』における「ウケヒ」の意義
——スサノヲの造型における「ウケヒ」の機能——　高本浩司

呪術考
——古事記における表現と呪術の問題——　東野敦司

『古事記』にみられる「殺し」の古層
——オホゲツヒメ神話を中心として——　関口和哉

万葉集「行路死人歌」論　林佐奈子

『万葉集』巻十三論
——相聞・問答長歌を手掛かりとして——　勝見昌浩

万葉集の問答歌について——問答の意義——　落合芳

万葉の風
——秋風を中心に季節感を考える——　杉村陽子

「万葉集　巻十一・十二論」　角恵子

『風土記』において浦島子伝承が取り入れられた意義　谷知子

『万葉集』の「詠何」歌
——天平勝宝二年家持歌を中心として——　山中節子

『源氏物語』夕顔巻の構造
——夕顔怪死事件をめぐって——　大道美和

『大鏡』における「大臣のつづき」という方法　橋本享子
『源氏物語』における植物呼称のはたらき
——「夕顔」を中心に——　日詰千栄
呼称からみた『源氏物語』の表現の特徴
——「この君」と呼ばれることの意義——　桑原もと子
『源氏物語』若菜巻の方法
——照応する系図をめぐって——　鈴木肇重
『源氏物語』にみられる「さるは」のはたらき
——石川説の検討を中心に——　若松栄一
『竹取物語』における笑いとその意味　徐徳明
「安騎野従駕歌」に見える「短歌」の意義
——人麻呂作歌の分析を通して——　工藤江理
『竹取物語』における愛情について　黒木周士
『伊勢物語』の方法
——『大和物語』との比較をめぐって——　西村智秀
『竹取物語』における求婚難題の役割と必要性　山本智史
『伊勢物語』における地名
——『伊勢物語』の歌と地名との関係——　安若直樹
『平家物語』における平清盛像造型　藤木薫
『平家物語』の語りとしての文芸的成長　浜辺尚士
『徒然草』における笑い
——死の認識との関連——　平井朋子
作品研究　謡曲『舎利』
——その成立の背景をめぐって——　五十川陽子
平家の女性たち
——『平家物語』灌頂巻の建礼門院を中心に——　川端照代
『平家物語』祇王説話における女性像　木村仁美
『平家物語』の千手をめぐって　熊田恭子
『徒然草』における兼好の思想
——美意識を中心に——　前川知代
『宇治拾遺物語』における編者の視点　長川真弓
近世における『宇治拾遺物語』の享受　中田景子
『平家物語』と琵琶法師
——その宗教的結び付きについて——　奥本花子
『平家物語』における平重衡像について　大前徹
『神道集』巻九「北野天神事」の特質
——『太平記』などとの比較から——　菅理恵子
『今昔物語集』の性表現
——「愛欲ノ心菰シテ」をめぐって——　山添哲也

『平家物語』覚一本の語りの偏向
——瀬尾、難波譚について——　片岡嘉子

黄表紙におけるパロディ化の構造
——「無間の鐘」を通して——　芦澤郁

『南総里見八犬伝』における悪女の思想
——船虫の造型をめぐって——　入江泰子

『東海道四谷怪談』のお岩像について
——南北作品の幽霊をめぐって——　入江由紀子

近世初期における「小栗物」の展開
——「延宝三年板」を中心に——　石田小百合

『傾城吉岡染』の浄瑠璃史的意義
——その歌舞伎色と石川五右衛門物としての位置付け——　北川敬子

『世間胸算用』を通してみられる教訓の意義と特質
——西鶴作品全体を通して——　森山陽子

『御伽物語』の文学的位置についての試論　中森千聡

『世間胸算用』「平太郎殿」の構想
——西鶴の複眼的視点をめぐって——　西沼美奈子

『好色一代男』論
——最終章、女護の島渡りをめぐって——　高原睦子

『恋女房染分手綱』の演劇史的意義
——「与作物」の展開に即して——　和田真希

『嵐無常物語』下の三の特質
——西鶴の女性像と追善的性格をめぐって——　山中睦子

『日本永代蔵』の成立について
——その研究史をめぐる諸問題を中心として——　福谷智之

滑稽本『浮世風呂』
——登場人物と各場面について——　柳本和紀

西鶴作品と諸芸能の考察
——主に雑芸能との関わりを通して——　俣野幸子

『日本永代蔵』の矛盾　橋本有里子

『三七全伝南柯夢』論
——先行作品との比較を中心に——　石原美希

『武道伝来記』論　加納善三郎

『曽根崎心中』をめぐって　加藤和将

『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」についての考察　北井大計

『桜姫東文章』考　北村奈緒子

『好色五人女』
——巻三「中段に見る暦屋物語」について——　小池真理
『曽根崎心中』考　小坪典里子
『仮名手本忠臣蔵』について
——三つの死をめぐって——　松繁由紀
河竹黙阿弥の七五調科白について　宮川朋子
「菊花の約」について
〝北の国から〟のメッセージ
——作品の分析と特徴——　宮本善文
『雨月物語』の女性
——宮木と磯良——　森田友子
『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」をめぐって　永田恵子
井原西鶴『武道伝来記』についての一考察　中村真己子
『曽根崎心中』「観音廻り」について　西田淳也
『好色一代男』描かれた女性像と世之介設定の意図について　西川弘美
『おくのほそ道』と歌枕　西村明子
「浅茅が宿」私論　岡田佳子
『好色五人女』「姿姫路清十郎物語」の研究　奥村幸代
『曽根崎心中』の人物及び場面の展開　大倉省人
『曽根崎心中』研究　沢田一成
『源義経将棊経』について　園智也子
『日本永代蔵』の二つの矛盾について　丹波直美
芭蕉古池伝説をめぐって　植田愛子
謡曲の文学的価値
——イェイツによる指摘をめぐって——　上野佳代子
『曽根崎心中』
——観音廻りの重要性——　吉川有智子
近松浄瑠璃とその周辺
——近松の「卓越性」へのアプローチ——　山田雅文
黒沢明のドラマツルギー　中川久公
太宰治『駈込み訴へ』論　横山一真
『わかれ道』論　藤原理賀
夏目漱石『それから』論　舟橋澄美
——作品に於ける恋愛の位置づけ——
『坊っちゃん』論　木戸彰子
『三四郎』論　栗本和美
——「田舎者」について——　松島裕之

太宰治・『新郎』『十二月八日』の周辺　水本玲子
『春琴抄』――語りの構造――　尾崎裕子
『それから』論
――「高等遊民」をめぐって――　高野美代子
『猫と庄造と二人のをんな』論　若井万里子
岡本かの子『鮨』論
――鮨に通う「いのち」――　吉村栄美
『暗夜行路』における「空間の問題」　ゾペティ・デビット
新美南吉の「心の疎通」の問題
――「久助君もの」をめぐって――　安藤延明
『少年』論　福治督浩
『仮面の告白』論　花光勘司
江戸川乱歩『孤島の鬼』論　林由香里
『風の又三郎』論　広田一実
京都時代の菊地寛と『無名作家の日記』について　堀井真生
木下順二『夕鶴』について
――原話「鶴女房」からの改変――　樺井裕美子
『非色』論
――少数民族問題（マイノリティ・プロブレム）と変容する母性――　楠本陽子

『痴人の愛』試論　松尾哲治
谷崎潤一郎の『武州公秘話』
――大衆文学を通って『春琴抄』へ――　関戸智行
『春昼』『春昼後刻』論
――幻想の成立――　嶋田純子
芥川龍之介『蜘蛛の糸』論
――童話に見られる我欲のモチーフについて――　鳥山祥子
堀辰雄の『春』論
――『風立ちぬ』の中の一章として――　吉井孝
谷崎潤一郎初期文学における一考察
――『刺青』を中心に――　岩井奈緒子
『木の都』
――織田作の虚構文学――　平尾多一
『駈込み訴へ』論　広瀬義則
天人五衰論　水谷潤一
芥川龍之介の文学における童話　淡野康子
二葉亭訳『あひびき』に見られる欧文脈の現代口語文への定着
――米川正夫訳との対照比較から――　秋山洋也
色彩形容詞の日英対照　藤田慶子

「国字」の歴史と現在の位置について　長谷部　京子
オノマトペと一般的な言語記号との違い　井口　昌子
「恋ふ」と「慕ふ」と
——愛情表現についての一考察——　黒川　優
味覚表現語の語義と分類　松尾　泰美
現代広告用語の特徴と傾向
——広告・コピーを中心に——　宮本　吏子
対称代名詞「おのれ」について
——中世・軍記物語を中心に——　水谷　香里
複合動詞の名詞化について
——V1＋V2タイプのもの——　中御門　希実子
恋歌における男女間の呼称
——万葉集・古今和歌集の用例をめぐって——　西尾　由佳
京都市における店名の傾向と店名に発揮される表示性、表現性についての考察　岡村　健二
「彼」（カレ）「彼女」（カノジョ）の沿革についての一考察
——明治期小説の用例をめぐって——　大浦　真紀
雑誌名における命名の志向　杉野　聖子
『元興寺伽藍縁起并流記資材帳』と『上宮聖徳法王帝説』における和漢の混淆について　長野　智美

一九八九年度修士論文題目

韓日語り物文芸における物揃え
——『春香伝』と『浄瑠璃姫物語』との比較——　邊　恩田
『諸葛孔明鼎軍談』論
——竹田出雲の創作態度——　渡邊　めぐみ
木下順二の民話劇『夕鶴』をめぐって　徐　彭陽
日・韓天地創造神話の比較考察
——記紀神話と韓国の巫俗神話を中心に——　金　鉉煬
『日本書紀』地名起源記事考
——史書における歴史叙述の方法と論理——　根川　幸男
オオクニヌシ神話の構造
——韓国神話との比較——　鄭　秉淳
「近世初期に於ける女訓物の成立について」　河合　祐子
小杉天外におけるゾライズムの移入
——初期作品をめぐって——　今野　ゆかり
『心中宵庚申』の方法　白瀬　浩司